

色

の専門家から見た 上越の特色



お気に入りの景色

私は、直江津にある無塗装で、木板の材質感がそのまま出ている板張りの家が好きです。以前から地域らしさがあって、きれいだなと思っていました。ある地区では同じような様式の建物が連なっていますが、大きさや高さ、そして屋根勾配等に適度な違いがあり、まとまりと変化があります。冬の風除けのための造作と建物群との関係も面白いですね。木造の家は、砂が混じった風に吹かれ、サンドブラストで削られたように、年輪の陰影が出て味わいがあります。冬の一時期、退色した外壁は積もった雪の反射を受けて、灰銀色に光ります。青い空と荒海と白い雪、そして木造の建築群がつくり出す景色は、ここにしかありません。しかし、徐々に住宅の壁は様々に着色された新建材に変わり、直江津らしい景色は失われつつあるのが残念です。

上越の色はどう変わったか

一方、金属の屋根は青や赤など、彩度が高い色が混入しています。本来、日本の民家の屋根は、瓦や木板の色で、低明度・低彩度の暗めの色で揃っていました。山陰地方で見られる赤瓦は、我が国では色味を感じさせますが、それでも彩度は低く茶系の色です。そのような伝統的な建材の色と比べると、金属屋根の赤や青は異常な鮮やかさで、周囲の豊かな自然の見え方を阻害しています。上越市でも、地域の景観を守るために色彩基準をつくり、公共建築物の色彩も調整して来たので、徐々にその成果が出て、まちなみとしての色彩のまとまりが出てきたと感じています。

「動く色」と「動かない色」の使い分け



吉田 慎悟氏
環境色彩計画の第一人者。武蔵野美術大学教授。
平成11年から上越市の景観づくりに携わっている。

私が思い浮かべる上越らしい色は、昔から長い間使っていた建物の色です。そのような建物の屋根は低明度・低彩度、そして壁は中明度くらいの明るさで、色相はY R (イエローレッド)系やY (イエロー)系にほぼ収まります。最近新しく建てられた建物には、様々な素材が使われ、昔より明るくなっていますが、色相は概ね昔から使っていた色彩範囲と重なります。このように慣例的に使われている色があるということ、まず皆さんには知っていただきたいですね。建物の色を考えるときには、この慣例的な色の中から選べば、まちなみとしてまとまりが感じられ、自然がより美しく見えるようになります。

建物にはこのような落ち着いた色を使い、変わるもの、動くものにはもう少し鮮やかな色を使ってもよいと思います。例えば、店先にちょっと鮮やかな暖簾を掛けたり、商品ディスプレイにうまく色を活かせば、まちを歩く人達の目を楽しませます。住宅では、季節の花を植える、あるいは出窓でもあれば、そこに好きなものを飾る、開け閉めするカーテンで色を楽しむのもよいですね。動くもの、変わるものに色を使うと効果的です。できれば四季に合わせて、冬は暖かいい色、夏は涼しげな色を使い分けると、季節感が出てもっといいですね。

※用語の説明…「色相」色味のこと。／「彩度」色の鮮やかさ。彩度は高いほど鮮やかで、低いとくすんだ感じ。／「明度」色の明るさ。明度は高いほど明るく、低いと暗い。

景観セミナーを開催しました

平成26年10月4日に、安塚区を会場に景観セミナーを開催しました。景観資産である「柳葉ひまわり」を見学し、地域で長く取り組まれてきた景観づくりの手法と事例を学びました。

参加された皆様からは、「とてもきれいで感動致しました。やはり地区の住民の方々の協力と景観に対する強い思いがあつての成果なんだと思いました。」「広く景観について学習できたので、自分の住む地域でもその意識を持って生活したいと自覚しました。」といった声が聞かれました。



柳葉ひまわり群生地地域取組を学習

景観情報紙
2015. 2



上越市



景観

LANDSCAPE

観

KEIKAN

上越人のDNAを探る

「まちの色」を考えてみよう
「建物の色を考える」「周りとの調和を考える」「公共の色を考える」
色の専門家から見た「上越の特色」
景観セミナーを開催しました



「旧師団長官舎」(大町2丁目)

まちの色を考えてみよう

建物は、個人のものであっても多くの人の目に触れるものです。そのため、色を選ぶ際には、ご自身の好みや目立つことを優先するよりも、周りに暮らす人々や上越を訪れる旅行者の視点に立って、よりよいまちなみになるよう配慮することが大切です。

建物の色を考える

建物の外装色には、ベージュやクリームなど暖色系で鮮やかさを抑えた色が多く使われています。こうした「慣例色」は、よく見慣れた無難な色ですが、同時に長い時間の中で洗練されてきた建築外装にもっともふさわしい色でもあります。ベースとなる色は「慣例色」を基本に考え、アクセント等で変化をつけるようにしましょう。

●東城保育園



鮮やかさを抑えた暖色系の色をベースに、アクセントとして同じ色味の明るい色が使われています。

園長先生からは、「初めはピンク色をアクセントに使いたと思っていましたが、全体を同じ色味で統一させたことで、まとまりが出て良くなりました。ピンク色を使わなくて良かったです。」と改修後の感想をいただいています。



周りとの調和を考える

目立つことばかりを考えただけではなく、隣り合う建物やまちなみと色合いをそろえるなど、周りとの連続性・共通性を考えた節度ある色使いを心がけましょう。ひとつの建物が目立つ景観ではなく、様々な要素が一体となってその場所らしさを醸成している、雰囲気の良いまちなみをつくりましょう。

●土橋南地区のまちなみ

地域のまちなみに関する取り決めの中で建物の色についての基準を設けています。建物の色は落ちつきのある鮮やかさを抑えた色とし、工作物の色を茶系にそろえることで、まとまりのあるまちなみになっています。



●旧頸城鉄道本社 (頸城区百間町)



改修前は明るい色でしたが、隣の資料館と比べるとアンバランスで、浮いた印象を与えていました。

明るさを抑えた色に変えたことによって、隣の資料館と一体感がある印象に変わりました。



公共の色を考える

公共的な工作物は、大きく、連続性もあり、日々の生活の中でも良く目に入るものです。こういった工作物も、まちなみや自然といった周りの景観に配慮されてきています。



●赤倉大橋 (大島区田麦)

地域のランドマーク的な橋ですが、色で目立たせるのではなく、自然の中の人工工作物はシルエットだけでもランドマークになります。山中であるため濃茶を使用した結果、緑ともなじみ、周りも含めて一体的な印象が出るようになりました。



●携帯電話用無線鉄塔

大きな鉄塔は、景観上周りへの影響が大きいため、周囲になじみやすい茶色が使われています。山では濃茶、海辺では薄茶、まちなみではその中間の茶色です。色の違いを見つけるのも面白いですね。



●ガスホルダー (青木)

「ガスホルダー」と聞いて、皆さんはどんな色を思い浮かべますか。写真のガスホルダーは、周囲のまちなみにも溶け込むよう、ベージュに塗られています。



●高田公園の案内看板

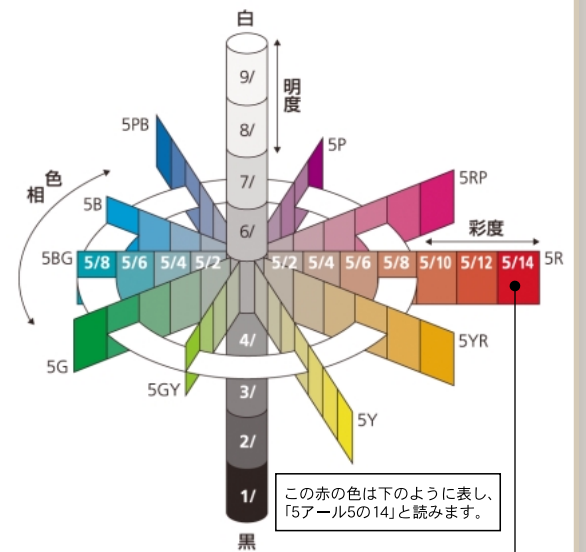
高田公園内の看板は、色や大きさ、デザインなどの決まりが作られています。看板として見やすいだけでなく、自然と調和した濃茶で統一されています。高田公園に来た際には、意識して見てみてはいかがでしょうか。

色の表し方「マンセル表色系」について

色にはさまざまな表し方がありますが、上越市の景観づくりにあたっては「マンセル表色系」を用いています。

「マンセル表色系」とは、色合いを表す「色相」、明るさを表す「明度」、鮮やかさを表す「彩度」の3つの属性によって下のグラフのように表されます。

3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものが「マンセル記号」です。



5R 5/14
色相 明度 彩度

※これは印刷物のため、実際の色彩とは異なります。